



福生市男女共同参画行動計画では、地域活動への男女共同参画の促進は重要な項目です。地域や生活課題の解決に向けて、自分が住んでいる地域を住みやすく、豊かなものにし、いきいきとしたまちをつくるために、積極的に活動しているお二人取材しました。



おはなしボラさん
山根弓子さん

山根さんは現在、市内の4つの図書館で活動しているボランティアグループ「おはなしボラさん」のメンバーです。5年前から月に1度武蔵野台図書館で絵本の読み聞かせや素話をしています。活字離れといわれる昨今ですが、楽しい素話で聞く人を引き付ける山根さんからお話を伺いました。

お話ボランティアになられた経緯

独身のころ、練馬区で朗読の講習を受けました。区費を使った講習なので何かしようと思い、子供祭りで紙芝居をしたり、目の不自由な方向けに本をテープに吹き込んだりボランティア活動をしていました。

当時、本を読みながらではなく、素話（ソトコト 覚えて語る）をしている方がいらして、それを見て感激して自分もやってみようと思いました。そこで、中野区の「東京子ども図書館」のお話の講習を受け、修了後、おはなしボランティアの活動をしています。

地域参加をされたのはどのようなきっかけですか？

現在、中学1年の子どもが小学1年生の時、PTAの自己紹介でおはなしボランティアの事を話しました。先生から子どもたちの前で話をして欲しいと頼まれました。教科書に載っている物語の絵本も読みました。子供たちに大変喜ばれ、私もとても楽しかった。その経緯がきっかけです。

お仕事とボランティア活動とお忙しいなかで、ご家庭では？

夫は仕事が不規則ななか、スポーツの指導で地域に参加しています。男女共同参画の手本になるような人で、私がお話を覚えているときなど、料理・洗濯と率先してやってくれます。同居の母も元気で、家事を手伝ってくれます。理解ある家族に支えられて、ここまでやってこれたのだと感謝しています。

地域に参加するにはどのようにしたら良いのでしょうか？

自分の出来るところから始めてみてはどうでしょうか。私たちのグループでも、全員がお話をするというのではなく、手作りの紙芝居の色をぬったり、小道具を作ってくださいる方もいます。どんなところからでも良いと思います。まずは、自分から発信してみることです。今度、市で「輝き市民サポートセンター」が出来そうですが、そうした場所に出かけることが始まりのきっかけになるのでしょうか。グループ「おはなしボラさん」はとても幅広い年代の集まりですが、特に代表はいません。まずは仲間になって、始めることが大切だと思います。

また、男性のメンバーがいないので、ぜひ参加して欲しいです。若い方が元気に読む話から、年配の方が、静かに落ち着いた声で読む話までいろいろあります。経験、年齢、性別を問わず、子どもと子どもの本が好きな方、いつでもお待ちしております。



—お問合せ— 中央図書館 (553-3111)



**NPO法人
自然環境アカデミー**
野村 亮さん

最近、自然観察や、自然についていろいろと関心をもつ人が増え、身近にある川原や雑木林などの利用、管理等問題になってきています。野村さんが事務局長を務めるNPO法人自然環境アカデミーは、長年の経験や学習を生かして、自然環境について活動するために設立されました。

自然環境に興味を持った経緯

福生生まれの福生育ちなのですが、小学校の野鳥観察会に参加し、多摩川で見たマガモの美しさに驚き、野鳥を観察するようになりました。その後、父にあちこちと連れていってもらったり、理科の先生や公民館の職員の方との観察会に参加したりして、興味と関心は増していきました。自然にふれあうことで、言葉では言い尽くせない豊かなものを得たような気がします。

NPO活動やお仕事等お忙しいスケジュールのなかで、ご家庭では？

妻はサラリーマンで、仕事も忙しいので、細かいところで迷惑をかけていると思っています。自分はフリーカメラマンなので、家事については出来る限りのことはやっています。家では掃除は苦手ですが、自分で台所に立つことは何の抵抗もないので、得意な揚げ物や子どもの大好きな肉じゃがを作ったりしています。いわゆる家事について、性別で役割を分担するようなことはほしくないですね。そのとき出来るほうがやるといった具合です。もちろん共働きなので、両方の帰りが遅いときは、子どもの迎え等で母の協力も得て生活しています。

地域参加についてどうお考えですか？

最近思うのですが、現代は何でも自分で考えなくて良い社会になっているような気がします。言い換えると、何をやるにもマニュアルどおりやれば良いし、出来ないところや手に入れられないものは、お金を出してすますといった社会だと思っています。自然の中で活動していると、適時良い方法を考えて対処しなければいけないわけです。地域に暮らしていく上で、何か不都合があったとき、どうしてそ

うなのか、どのように対処していけば良いかを考えていくと、当然自分から地域をどう変えていくのか、そのためにどのように参加したら良いかに向かっているのではないのでしょうか。よく考えてみると、人間が生きていくうえで、仕事だけしていれば生きていけるということの方が、何か不自然な気がします。

そういった“自分でどうしたらよいかを考える人材”を意識的に養成するというのは、難しいことだと思います。アカデミーは、意識的に考え、行動する人たちが集まっている団体です。



（中央の集約）

—お問合せ—
自然環境アカデミー (090-5211-3520)
e-mail: academy@m3.dion.ne.jp

【お二人の取材を終えて】

▶話をしているとき、子どもたちが身を乗り出してきたり、目を輝かせたりしてくれることがボランティアの生きがいと話す山根さんや、自然から言葉に尽くせない豊かなものを得たという野村さんの話を聞いていて、自分からまず出来るところから地域に参加することが大切だと思いました。

▶お二人ともそれぞれの家庭では、そうした地域への参加を支えあっているパートナーがいることもお話ししてくださいました。男女共同参画社会を形成していくことは、地域社会の参加を進める上でも、大変重要な要素なのではないでしょうか。